

表層地盤の物性値設定における一般的・標準的な手法と六ヶ所サイトへの適用について

＜建築物における人工表層地盤物性値設定の一般的な考え方＞

- 建築物の入力地震動を決めるにあたり、人工表層地盤の物性値は、当該地盤についてのボーリングにより得られたデータに基づき設定するのが一般的な考え方である。これは建築物に適用する地盤モデルは、当該建築物の設計に用いる物性値として最も確からしい数値を用いるという考え方に基づくものである。このとき、人工表層地盤は当該建築物のためにその直下及び周辺に造成されるものであるため、通常の建築物のように1棟もしくは少数の棟毎に設計施工される場合は、その建築物の直下及び周辺のデータに基づき物性が設定されることになる。以上により、通常の建築物の場合はその直下及び周辺のデータに基づき物性が設定されるというのが一般的な扱いとなる。

＜原燃六ヶ所サイトへの一般的な考え方の適用＞

- 一般的な建築物にはない六ヶ所サイトの施工手順の特徴として、広範囲を掘削し、一定の管理に基づく人工地盤で埋め戻す形で地盤を造り（全面掘削・全面埋戻し）、複数の建築物を配置していることから、再処理施設全体として1棟としてみなすことができる。
- 個別のボーリングにより得られる物性値はばらつきを有するが、このばらつきはエリア内の物性値の偏在を示すものでなく、データサンプル毎のランダムなばらつきを表すものと考えられる。
このため、各建築物周辺の人工地盤の物性値として最も確からしい数値は、人工地盤を施工した範囲での一律の物性値を採用するのが合理的かつ一般的な考え方となる。
- 以上の考え方に基づき、再処理施設における表層の人工地盤物性値は、サイト内で同様の管理下で施工された箇所ので平均値として与えることが適切と考えるものである。

今後、以上の内容について、6月2日提出資料「表層地盤の物性値に係る検討について」の改訂版に反映する。

以上